

都市空間としての野球場

Baseball stadium for urban space

1K06B169-2 二敷 晃成

指導教員 主査 宮内孝知 先生 副査 石井昌幸 先生

【目的・方法】私は、野球場建設と都市空間についての関連性について論じた。現代における都市とスポーツの関係性について主に経済的側面と社会的側面の両方から俯瞰し、野球場の存在がその地域に与える効果について考察する。研究対象とした「野球場」は、日本のプロ野球またはアメリカの大リーグの本拠地となっている興行的な野球試合の開催される野球場である。

【研究の動機】広島県の都市復興のシンボルとして市民に勇気を与え続けてきた旧広島市民球場が2009年、MAZDA Zoom-Zoom スタジアム広島（マツダスタジアム）として生まれ変わった。新球場が期待されているのは、広島駅周辺都市再開発の中核的役割である。そこで野球場建設を発端にそこから都市の再開発を進め、都市全体としてどのような新しい魅力を創出していくかについての考察を行うこととした。

【1章】まずは都市の定義を明らかにした。その後現在日本の各都市において都市再開発が求められる背景を、戦後から現在までの都市の変遷を踏まえながら考察した。新しい時代に向けた理想の都市づくりにおいて必要とされる要素は、経済力ではなく各都市の文化的な個性である。そして私はその文化的な個性としてスポーツに焦点をあて、スポーツが都市の内外から人を惹きつける魅力になると考える。それを踏まえ、現時点で挙げられる課題点を考える。

【2章】現在成長分野として位置づけられるスポーツ産業の現状を数値化し、スポーツ産業の持つ今後の更なる可能性を探る。そしてその根拠として人々のライフスタイルの多様化を挙げる。また、過去にスポーツ産業から波及した経済的・社会的な効果の実績を例に挙げ、1章で述べた理想の都市のありかたと結び付けて都市再開発手段の選択肢の一つとしてスポーツが都市活性化に寄与できるということを提唱する。

【3章】戦後の野球場の歴史と都市の関わり方について比較した。また日米の球団経営の違いから派生

した、都市と野球場の相違点を明らかにした。古くから球場建設の盛んであったアメリカであるが、アメリカの手法は日本には馴染まない。野球場建設が都市再開発と連動して行われた具体例を紹介し、野球場建設が都市活性化に寄与した実績を挙げる。

【4章】都市再開発の中核的事業として建設されたMAZDA Zoom-Zoom スタジアム広島（マツダスタジアム＝広島市新球場）を具体例に挙げ、新球場建設に着手した経緯を見直す。そして実際に建設された広島市新球場の経済効果を数値化して当初の目標と実際の経済効果を比較し、野球場が都市に与えている影響について言及する。また、広島の新球場建設が、長期的なビジョンで都市との調和を図っていることを象徴する斬新な手法を取り上げ、日本における野球場建設の先駆けになれるという考えに至った。

【結論・考察】野球場が都市に与える影響には、「地元経済の活性化」「ヒトの集積効果」「都市のシンボルとしての効果」の3点の効果をもたらしことができる、と私は考える。都市のシンボルとしての貢献度、市民の誇りとして生活を豊かにするための活力の影響力は絶大である。そして都市全体としてその効果を得るために、未来の街づくりを考慮して長期的な視点で、かつ周辺地域を商業的・文化的に巻き込んで行われるべき事業であることを示す。野球場は建設後に長期間をかけて都市の内外の人々、民間企業、自治体に育てられることによって都市のシンボルとなりえる場所である。民間企業によって行われる周辺の商業的、複合的開発へ受容性を持った都市に開けた野球場を建てるのが、都市再開発に寄与するための必要条件だといえる。日本国内、またメジャーリーグともに、野球場建設とは単なる大規模建設事業ではない。野球場建設は建設される都市の描く将来的な構想を踏まえて行われるべき都市開発事業なのである。そして導き出した結論は、都市との調和を図り、かつ長期的なビジョンを持って野球場建設を行うことが都市再開発の有力な手段になるということである。